

# 犀川上流倉谷地区において採集された小哺乳類

(石川県の小哺乳類相の研究 II)

大串 龍一・中橋 典子・中村 浩二

金沢大学理学部生物学教室

## SMALL MAMMALS FROM KURATANI RAVINE

Ryoh-ichi OHGUSHI, Noriko NAKAHASHI and Koji NAKAMURA  
*Biological Laboratory, College of Science, Kanazawa University*

### はじめに

筆者らは1975年以来、北陸地方のいろいろな環境条件の下における小哺乳類の生態と分布を調査している。この調査は当地方の生物相を明らかにすると同時に、この地域の生物群集の中で一次消費者あるいは二次消費者として重要な位置を占め、個体数もかなり多いと思われるこれらの小哺乳類の種類相と生息密度を知り、地域生物群集を理解するための基礎資料を蓄積することを目的としている。

こゝでは、石川県下の低山帯の小哺乳類相調査の一部として、白山山群の最も北に位置する高三郎山の山麓部にある旧倉谷村落付近の一地点で採集した小哺乳類の種類と、その採集のさいに知りえた若干の知見を報告する。

### 調査地の条件と調査方法

この採集をおこなったのは、犀川上流の犀川ダムのダム湖の上端より少し上手にある金沢大学ワンダーフォーゲル部のヒュッテの周辺である。このあたりは廃村となった集落あとで、海拔約350 m、冬は深い雪におおわれる。原植生はブナ林と考えられるが、現在はスギやコナラを主とする混交二次林であって、林床は密生したチシマザサでおおわれている。ヒュッテは東北向きで傾斜約10度の山の斜面を切り開いてつくられたせまい平坦地に立っており、ヒュッテのすぐ上には、三段の小さな平坦面があるが現在は裸地となっている。これら4段の切り開かれた平坦面全体を二次林がとりまいている。

小哺乳類採集のためのトラップは、この平坦面と周囲の林地の境界の付近、密生するチシマザサの中へ設置した。第1回の採集だけは、このヒュッテより垂直にして約20 m下にある河原と森林の境界にしかけた。

採集には主としてはじきわなを用い、一部生捕用のシャーマントラップを使用した。餌はすべてサツマアゲを用いた。採集は第1表に示したように1975年8月から1977年11月までの間に6回行なった。

採集した個体は、なるべく現地で体重および体各部の長さを計測した上、ホルマリン漬として研究室に持ち帰り、再計測の上解剖して雌雄をたしかめ、生殖器の成熟状況や消化管内容等についての調査を行なった。現地の採集は5回は大串、1回は中村が行ない、研究室における再計測ならびに解剖

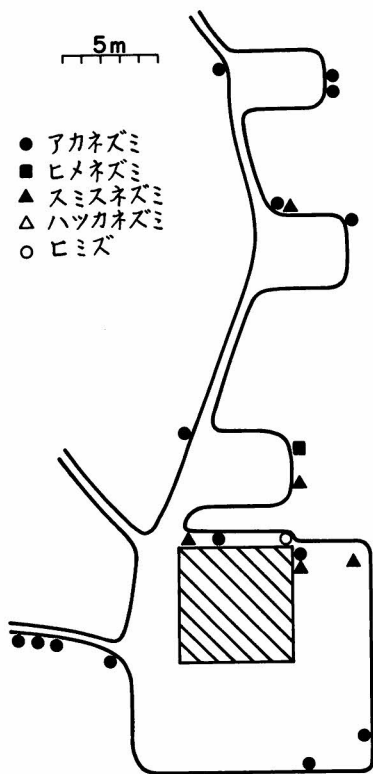
による調査は中橋が行なった。

採集結果

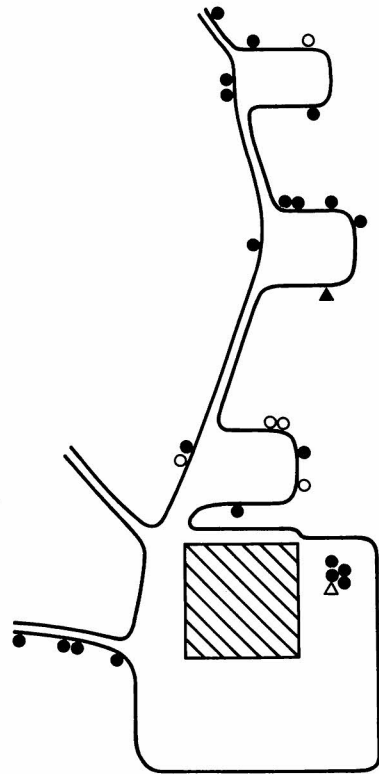
こゝで下記のような種類の小哺乳類が採集された。その採集された日時と個体数を第1表に示す。

第1表 採集された小哺乳類の種類と個体数

採集年月日	アカネズミ	ヒメネズミ	ハツカネズミ	スミスネズミ	ヒミズ	計
1975・8・30	2					2
1976・5・10~12	5	2	1			8
1977・5・13~16	14	1		5	1	21
〃 6・14	12	3			1	16
〃 8・9~11	8				3	11
〃 11・18~21	21	1		1	5	28
計	62	7	1	6	10	86



第1図 倉谷ヒュッテ周辺におけるネズミおよびヒミズの採捕点 (1977年5月13~16日)  
斜線はヒュッテの建物を示す。



第2図 倉谷ヒュッテ周辺におけるネズミおよびヒミズの採捕点 (1977年11月18~21日)

アカネズミ	<i>Apodemus speciosus</i>
ヒメネズミ	<i>Apodemus argenteus</i>
ハツカネズミ	<i>Mus musculus</i>
スミスネズミ	<i>Eothenomys smithi</i>
ヒミズ	<i>Urotrichus talpoides</i>

このように4種のネズミと1種の食虫類がこのヒュッテのまわりで採集された。その中でもアカネズミが圧倒的に多く、その他の種類はそれほど多くはない。

これらのネズミやヒミズがどのように配置されたトラップにかゝったかということは、1977年5月および11月の例を第1図と第2図に示した。これで見ると、ネズミは特定の場所のトラップに集中することはなく、ヒュッテ周辺のいろいろな場所にひろく平均してとれている。また、2、3日連続の採集のばあいのとれ方は第2表に示した。1977年5月の例では、あとの日ほど多くの個体がとれている。

第2表 連続採集の場合の日別採集数  
(5種合計、カッコ内はアカネズミの数を示す)

採集年月日	第1日	第2日	第3日	計
1976・5・10~12	4 (3)	4 (2)		8 (5)
1977・5・13~16	2 (1)	6 (5)	13 (8)	21 (14)
” 8・9~11	8 (7)	3 (1)		11 (8)
” 11・18~21	15 (12)	4 (4)	9 (5)	28 (21)

### 考察および結論

北陸地方の小哺乳類に関する調査はまだあまり多くはない。望月(1962)は富山県において5種のネズミが生息することを報告しその生態的分布についてまとめた。それによるとハタネズミは平地部の田畑および草地、アカネズミは平地部(標高25m以上)から高山植物帯下限までの田畑、樹林地およびその付近の草地、ヒメネズミは山麓部(標高100m以上)から高山植物帯上限までの樹林地およびその付近の草地、スミスネズミは山間部(800m以上)から高山植物帯上限までの樹林地とその付近の草地、ヤチネズミは高山植物帯上限の灌木地帯とその付近の草地に生息するとしている。

石川県については花井(1977)が県下全域にわたる16ヶ所の採集記録をまとめて、ネズミ類8種と食虫類5種を報告しているが、それによると平野部から山岳地帯にわたってアカネズミの分布が最も広く、かつ優占的であって圧倒的に多い。平野部の畑地や草原ではハタネズミがやゝ多いところもみられるが、その他の種類については資料が不十分で、大体の傾向としては山地帯にはヒメネズミ、スミスネズミ、ヤチネズミが、平野部ではドブネズミやハツカネズミが生息することが知られる。食虫類ではヒミズとジネズミが広く分布するが、ジネズミは平地、山地を問わず採集され、ヒミズは山地帯に多く採集されている。なお、福井県については、今のところ小哺乳類の分布に関する報告はほとんどない。

今回の倉谷の調査では、アカネズミを優占種とするが、ハツカネズミ、ヒメネズミ、スミスネズミが採集され、平野部から山地帯に移行する地帯のネズミ相を示している。食虫類では山地性のヒミズが採集された。これらは白山山麓部の低山帯の小哺乳類相の一端を示すものと考えられるが、1軒の家のみというせまい地点で5種類の小哺乳類が採集され、その中には平地に多いハツカネズ

ミヤ、かなり高地性と考えられたスミスネズミが見出されたことは、この地域のネズミ相の複雑さを  
知る上で注目すべきことであろう。これらの種間関係などについては今後の研究課題である。

採集方法つまりトラップや餌の種類あるいは設置する場所などによって採集されるネズミの種類に  
多少のかたよりを生じる可能性はあるとしても、この地域に生息するネズミ類の主体をなすものがア  
カネズミであることはほぼ確実であろう。宮尾(1973)などものべているように、アカネズミは低山  
帯の二次林や草原などを好んで住むことから、この倉谷の集落あとをはかつての山畠や植林が二次林に  
もどりつつある状態を、このネズミ相は示しているもののように思われる。また、この常時は人が住  
んでいない1軒の家のまわりで採集されたネズミの個体数が、1977年だけでも70個体以上になるこ  
とは、この地域のアカネズミを主とするネズミの個体数が非常に多いことを推測させる(あるいは  
1977年にとくにアカネズミが多発したことを示すものかもしれない)。この調査はネズミの種類相  
を明らかにすることを最初の目的としたため、生息密度はこの調査結果だけからは明らかにはなら  
ないが、このような地域における野生鳥獣の餌動物として、また植物種子などの採食、昆虫など小動物  
の捕食をつうじてこれらのネズミ、とくにアカネズミが生物群集の中で持つ影響力は大きなものであ  
らう。

#### 謝 辞

この調査にあたってヒュッテを利用して頂いた金沢大学ワンダーフォーゲル部と、それについて  
種々お世話頂き、また調査に同行して協力して下さいの上馬康生氏にあつくお礼申し上げる。また、  
スミスネズミを同定して頂いた北海道大学農学部の阿部永助教授にも深謝する。

#### 文 献

- 花井正光(1977)哺乳類 石川県の自然環境第3分冊(鳥獣)149-198 石川県  
宮尾嶽雄(1973)乗鞍岳の小哺乳類ファウナ 中部山岳地帯における生物環境の破壊とその復元に関する基礎的  
研究(清水建美編)第1号 63-66  
望月正己(1962)耕地野鼠害に関する生態学的研究 富山県農業試験場特別報告2号 1-135

#### Summary

Faunastic survey on small mammals were carried out in 1975-77 at Kuratani, Kanazawa  
City, Ishikawa Prefecture. Some informations were obtained.

Collecting site: Young deciduous forest surrounding a abandoned village of Kuratani,  
about 350m in altitude. The station situate in a revine of the upper part of River Sai-kawa.

Collecting season: Three seasons except winter. We could not work in winter because of  
the deep snow.

Collected species: 3 species of rats, 1 species of vole and 1 species of insectivore were  
collected.

*Apodemus speciosus*

*Apodemus argenteus*

*Mus musculus*

*Eothenomys smithi*

*Urotrichus talpoides*

*Apodemus speciosus* is most abundant in number. This species is observed commonly in  
Ishikawa Prefecture.